



## 「後期始業式～校長式辞～」

前期終業式で、後期は自己実現を目指す時期であることを、お話ししました。自己実現とは、なりたい自分や生き方を考え、進路を切り開いていくことであり、理想とする人間像に迫ることです。

自己実現のために、後期は、大内中学校での学びを充実させてください。

「一人ではできないこと、分からないことが仲間と協力すればできる、分かるようになる」、「『分からない・できない、間違い』をみんなで共有することで、学習が深まり納得する」、「一人一人のなぜ、もっと学びたいという気持ちが高まる」、そんな大内中の学びを目指してください。

さらに、自らの学力向上を目指すためにチャレンジしてほしいことがあります。それは、「メモを取る」ということです。1年生の自己評価で、「メモを取るようになった」、とありました。メモを取りながら聞くというのは、話し手を尊重する行為であり、他者から多くのことを学び取ろうとする意欲の表れです。メモを取りながら聞く習慣を身に付けることができれば、学びは2倍にも3倍にも広がっていき、一生もののコミュニケーションツールとなります。どの学年も「人の話をしっかりと聞くこと」は、できていますので、メモを取る習慣で、更なる学力向上が期待できます。

そもそも、なぜ、学校で学ばなければいけないのでしょうか。各教科、総合的な学習の時間、特別活動、なぜ学ぶ必要があるのでしょうか。

例えば数学は、単に計算や問題ができるようになればいいだけではありません。友達との学び合いを通して物事をより深く考えたり、自分の考えを広げることができます。そして、物事を筋道を立てて考える力、「論理的な思考力」が身に付いていきます。

社会科の歴史はどうでしょうか。「なぜ、昔のことを学ばなければならないのか」、と考えている人も多いと思います。自分は、歴史というのは、当時の様々な立場の人の考え方や判断、生き方を学び、これからの自分の人生に生かしていく教科だと考えています。そして、友達との学び合いを通して様々な角度や立場から物事を考える思考力や判断力が高まっていきます。

このように、各教科に学ぶ意義や意味があり、学校でなければ学ぶことのできない、身に付けることができない力があるのです。

今の世の中はたくさん問題があふれています。自分の問題、友達の問題、身の周りの問題、家族や地域の問題、日本の問題、地球規模の問題。

「問題をどのように解決していけばいいのか」、知識がないと考えることができません。様々な角度や立場から考え、その時、その場で「どうすべきか」を判断し、行動できるようにならないければなりません。

学んだ知識や技能を使いこなして、思考力・判断力・表現力・行動力を高め、周囲と共に様々な問題を乗り越えていけるよう、学習に励んでほしいと思います。学習に励むことが、自分と周囲の人々を幸せにするとともに、持続可能な社会の実現につながります。

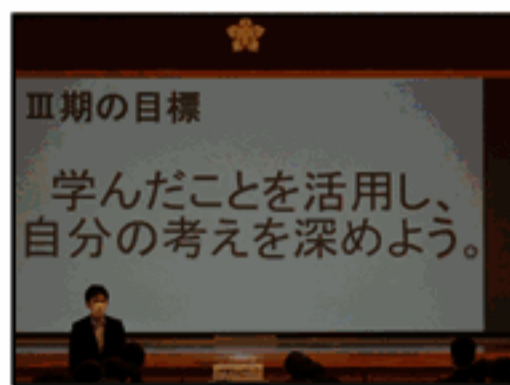
以上、学校で学ぶことの意味についてお話ししました。「実りの秋」、大内中での学びを、皆さん一人一人の人生において意味あるものにしてほしいと思います。



後期始業式



第Ⅲ期ガイダンス



第Ⅲ期ガイダンス